韓国における女性世帯主の貧困: 普遍的傾向または韓国的特殊性

金秀涏

皆様、おはようございます。東亜大学 の金秀挺と申します。

このように日韓の研究チームの皆様方にお会いできて大変うれしく思います。また、実はパネリストとしていらした先生方、あるいは韓国側の発表者の先生方の中で、韓国の女性世帯主世帯の貧困と関連した研究をされている方が大勢いらっしゃるわけですが、そういう方々の前で発表する機会を得て光栄に存じます。特に李恵炅先生は韓国で貧困の女性化の議論を一番初めに提唱され、多くの研究を通じて後輩を導いてくださっている先生です。そのような先生の前で発表する機会を得て光栄です。

1. 貧困の女性化

私が発表申し上げる内容を一言でお話しすると、韓国の女性世帯主の貧困が国際的にどのような座標のもとにあるのかを分析するものです。位置づけを模索してみるものです。したがって、実質的に女性世帯主の貧困の原因は何かという質問については、多くのことを研究することはできませんでした。後ろのほうで少しは扱っておりますが、本格的な議論はしないということを、事前にお話し申し上げたいと思います。

今日の発表は概ね次のような順序になっています。全体的に国家間の比較を通じて女性の貧困率の点検、貧困の女性化の問題を点検し、サブグループ別に貧困率がどうなっているかをチェックし、代表的な変数を通じて国家間の変異がどうなっているか、ロジット分析をすることでお話を進めていきたいと思います。

2. 女性世帯主の貧困に関する研究の難点

本日の報告で考慮したのは、既に女性 世帯主が男性世帯主より不利で貧困であ るというのはみんながご存じの常識で す。にもかかわらずこのお話をして分析 する理由は、まず女性世帯主の貧困自体 が、女性世帯主が独自の世帯を形成し維 持するのに失敗し、それが難しいという ことをあらわす指標になり得るからで す。

特に私が焦点を当てたのは、この世帯 形成の部分ですが、これにも関心を持つ べきだと思います。文化的、経済的な不 利益、女性世帯主が感じるそのような不 利益は、実質的に世帯自体の形成を抑制 する効果があります。またそのような世 帯が形成されると高い貧困率を招来し、 男性世帯主の中に隠れた形で貧困が沈ん でしまう可能性があります。 2つ目に注目したいのは、女性世帯主が同質性を持つ集団ではないということです。白波瀬先生はローンマザー(lone mother)、主に独身女性が子どもを育てているケースについてお話をしてくださいましたが、韓国の特殊性を分析するためには、韓国だけではなく、台湾も同じですが、女性世帯主の内部の多様性についてもっと注目すべきだと思います。

女性世帯主の貧困を国際的に比較し、 韓国がどのような位置づけにあるのかを チェックしたときに、女性世帯主の規 模、そしてサブグループ別の違いを含め て見たいと思います。李恵炅先生が基調 講演でもお話をしてくださいましたが、 女性世帯主の貧困率を測定するというこ と自体が容易なことではありませんでし た。大変多くの操作を要するものです が、女性が世帯主である世帯の定義が容 易ではありません。

代表的には、シングルマザーが女性世 帯主だと思われますが、単独世帯も女性 世帯主です。代表的なカテゴリーである ひとり暮らしの女性のお年寄りが大変ふ えています。また、有配偶者の女性も含 まれます。つまり、夫がいても実質的に 女性がその世帯の稼ぎ主になる場合は女 性世帯主に含まれます。女性世帯主が婚 姻形態においても多様な形態を含み、年 齢的にもかなり幅が広いと申し上げるこ とができます。

分析戦略によっては特定集団にのみ焦点を当てることができますが、私は、全体の貧困率を推定するときには、一番広い意味で女性世帯主と答えた人を全部分析に入れました。

そして女性の貧困の規模を推定し、貧

困の深刻性を表すときに、私はヘッドカウントによる貧困率(headcount poverty rate)を使っていますが、これが適切であるのか、一般的に使われている貧困率が適切なのか、もしかしたらもう少し貧困層の内部においての集中、内部での違いを見られる貧困ギャップの指標やその他の指標を考えることもできるのではないかと思います。さまざまなテクニカルな問題があり得ると思います。ともかく私はヘッドカウントによる貧困率を使いました。

2つ目に、普通私たちは貧困というものが女性化されている、貧困の女性化のテーゼの話をするときに、実質的にその意味が大変明確になっているものではありません。女性世帯主の貧困の深刻性に注目する効果はありますが、それを指標的に解決しようとした時に、どのような指標、どのようなレベルに注目すべきかという問題があります。

まず、初めに貧困の女性化のテーゼ、このテーゼをつくったダイアナ・ポスという人は、貧困層内部における比率 (proportion in the poor)を使いました。つまり、貧困層の内部においての女性の割合がふえているということに対して、貧困の女性化(feminization of poverty)と言っております。また多くの研究者は、男性の貧困率に比べて女性の貧困率がどれぐらいの割合を占めるのかというジェンダー格差にも関心を持っています。また女性化ですので、時系列で女性の貧困率がどれだけ増加しているのか、分析をすることもあります。

3. 女性世帯主の比率と貧困:比較国家 分析

私は女性世帯主を意味するFHH(female-headed householder)に注目して分析を行いました。この女性世帯主が年齢別、雇用形態別、家族類型別に多様な貧困率を多様な国で呈しているという点に注視して分析しました。このような分析戦略の中で、女性世帯主の貧困がどのような特徴を持っているのかを見ていきたいと思います。

まず第1図ですが、X軸とY軸についてご説明申し上げると、X軸は全体の世帯主の中の女性世帯の割合です。人口学的な割合ともいえます。2つ目は貧困層の中においての女性世帯主の割合です。このデータはLISデータを使っていますが、第5波です。概ね2000年前後のデータです。韓国は2000年が通貨危機直後ですので、貧困率が過剰に算出される可能性がありますので、韓国の2005年の福祉パネルのデータを使ってみました。

ごらんのように赤いラインの部分が、 実質的には正確に女性世帯主が人口に占 める割合の分だけ貧困層でもその割合を 占めているとしたら、このラインの上の 部分にいることになります。ほとんど上 のほうにあるのは明確です。だから結 局、貧困層の中において女性の世帯主が 不釣合いに多いのは、すべての国で同じ だと思います。

しかしここで1つ注目すべきことは、 今ここに太いラインで表示されている5 0%のラインです。これは、貧困層の中 で女性世帯主の占める割合が50%以上 で、まさにプアの中でも女性が多いこと を意味します。アメリカ、フィンランド、ドイツ、そしてスウェーデンやカナダもこれに当ります。この下のほうをごらんになると、メキシコ、台湾、韓国、ロシア、スペイン、このような国々があります。韓国の場合は2005年当時、人口学的な規模は18%ぐらいでしたが、貧困層の内部では40%を占めています。ほかの国もやはり女性が不釣合いに多いのは同じですが、韓国の場合は人口学的な規模に比べて、貧困層においての女性集中が著しいと言えます。

2つ目のグラフはやはりX軸は同じで、Y軸は女性世帯主の貧困率です。ごらんのように、さっきと同じデータを使って分析をしましたが、全般的にどのような傾向になっているのかを見ると、女性世帯主の貧困率がどんどん低くなる傾向があります。アメリカはその傾向では例外的存在ですが、女性世帯主の割合も高く、また女性世帯の貧困率も高いです。その反面で韓国の場合は女性世帯主が大変少ない。にもかかわらず貧困率は大変高い。女性世帯主の40%以上が貧困の危機にさらされているということになっています。

私はこれをゲットー化と表現しました。ゲットーとは少数の宗教集団、あるいはマイノリティーが都市の特定地域に集中して住んでいるものです。韓国の貧困女性世帯は数字としてはマイノリティーですが、貧困層に集中しているというゲットー的な性格を持っています。

4. 貧困の女性化の時系列的推移

続いては時系列的な特徴を見てみます。LISデータを使って、1990年、95年、2000年でみました。個別の国家に注目するよりトレンドをみますと、男性世帯主の場合増加するケースもありますし、また若干は減るケースもあります。全体的な傾向を見るとほとんどがちょっと右肩上がりになっています。下の女性世帯主の貧困率を見ると若干の偏差はあります。しかし全体的に見ると、90年から95年、そして2000年に行くにつれて減っていく傾向があります。

ですから実際は、全体的に見ると、貧困の女性化というテーゼが西洋諸国、ロシアやメキシコのような国を含めると、少なくとも女性貧困率の増加という主張するのは難しく、女性世帯主の貧困率は傾向からして見ると減少していたり、増加していると表現するのは難しい状態にあります。

ならば韓国はどうでしょうか。韓国はさまざまなデータ上の制限があります。一番長い間時系列の資料を見ることができるデータが、『都市家計調査』資料です。『都市家計調査』資料と、都市ではない全国レベルのデータを見られるものとしては、今はなくなりましたが、1996年、2000年の『世帯消費実態資料』と保健社会研究所が行ったKoWeps福祉パネルデータを使いました。

『都市家計調査』データで貧困率を推定をすると、いろいろな問題が発生します。ひとり世帯や農漁業の世帯を除外して、都市地域の労働者世帯だけを対象にしているということで制限があります。

にもかかわらず90年以降の流れを見ると、2000年代以降女性世帯主の貧困率は、都市労働者の中でも増加しているということがおわかりになっていただけると思います。

全体世帯の傾向は、96年から2000年、2005年、女性世帯主の貧困率は急激に増加しているということがおわかりになっていただけます。20%の後半から40%を超えるという形で増加しています。数年前から家計調査データが全国を代表する形で生産されています。ただ残念なのは、統計庁がつくっている家計調査のデータでは女性世帯主と関連して、結婚と関連した地位の変化を表す変数が含まれていません。そういうものを分析するのは難しいために、統計的に補足すべき内容が多いと思っています。

5. 女性世帯主のサブグループごとの貧困率比較

そしてサブグループの貧困について見ていきたいと思います。第1表を簡単にご説明申し上げると、全体的に見ると男性世帯主、女性世帯主、65歳以上、18から64歳、シングルマザー、有償労働をしている男性、そして有償労働をしている男性、そして有償労働をしています。資料集と関連して少しご了承いただきたいと思います。資料集をごらんになった方は大変申しわけありませんが、世帯貧困率に修正した表をごらんになってくださればと思います。

私がここで注目した内容は、女性世帯

主の世帯の中で特に代表的な貧困集団として注目されるシングルマザーの集団です。シングルマザー集団の貧困率が大変社会的な関心の対象となり、今はフェミニストがかなり研究をしています。

もう1つ関心を引くのは、65歳以上の 女性世帯の貧困率です。ひとり暮らしの 高齢者の世帯の中で、つまりひとり暮ら しのおばあさんが最近増加していますの で、65歳以上の女性世帯の貧困率につい ても注目して調べてみました。

この2つの列を比較してみるとおもしろいのは、社民主義国家と言われている国の中で女性世帯主の場合は、65歳以上の集団がシングルマザーより貧困率が高いことです。その反面、通常アメリカとかイギリス、そしてその他の社民主義国家に含まれていない国は、シングルマザー世帯がお年寄りの世帯より高い貧困率を記録しています。

下のほうをごらんください。イタリア、スペイン、台湾、韓国を見ると、韓国と台湾の老人女性の貧困率はものすごい数字です。このような国ではシングルマザーの貧困率はもちろん深刻ですが、お年寄りの女性の世帯の貧困率は大変深刻な問題です。

最後の列ですが、男性が有償の労働をする場合と女性が有償の労働をする場合を比較してみました。全体的にやはり貧困率はかなりダウンしているということがおわかりになっていただけます。韓国の場合は女性が有償労働に携わっているとしても、依然として16.8%が貧困な状態です。ほかの国に比べて貧困が大きく減らないという様相になっています。いろいろと韓国の女性の労働市場の不安定

性、あるいはジェンダーの賃金の格差、 このような問題について考えさせられる 数値です。

6. 貧困決定要因の比較分析

私が最後にお話し申し上げたいのは、 代表国家を通じてロジット分析をしたも のです。年齢や雇用の是非、そして家族 がいるかいないか、です。ロジット分析 においては、高齢者世帯を含めると分析 に錯乱が起こる可能性があるので、18か ら64歳に年齢を制限して、イタリア、ス ウェーデン、アメリカ、韓国、このよう な4つの国を分析してみました。

全体的に見ると予想した結果が出たと も言えますが、まず年齢変数の場合はほ とんどの国で、男性、女性世帯主すべて が、年齢が増加するにつれて貧困のリス クが減少しています。しかし韓国の場合 は年齢が上がれば上がるほど、貧困リス クが高まっています。実際は労働パネル やほかの結果も見てみましたが、18から 64歳に制限を加えてしまうと、韓国の場 合は福祉パネルだけでなく、すべての データで同じ傾向が現れました。この独 特な年齢効果が男女においてすべてあら われています。中高年の労働市場の崩壊 によって、年齢が上に行けば行くほど韓 国の男性も女性も世帯主の貧困が増加し てしまう傾向になっていると思います。

また予想された結果ですが、教育変数では、教育レベルが高いと貧困レベルが低く、教育レベルが低いと貧困レベルは高いです。

家族類型の区分が一番重要です。家族 類型の区分自体が実は大変難しい作業で すが、国ごとに多様性があまりにも大きいためです。LISが分類した基準に合わせて作業をしてみました。ここで基準変数は夫婦の世帯の変数です。全体の世帯の類型は六つに分かれますが、基準変数はカップル、つまり夫婦で子どもがいない場合です。2つ目の変数は、夫婦で18歳未満の子どもが1人でもいる場合。3番目は、夫婦プラス18歳以上の子どもがいる場合。そしてシングルである場合。同じようにシングルプラス18歳以上の子ども。このように区分してみました。

家族類型をごらんになると、この範疇が 事実上のシングルマザーに当たります。扶養の責任がある、そのような女性世帯です。夫婦世帯を基準にした場合は事実上の有配偶女性世帯主です。イタリアが3.73で、大変高いです。夫婦の世帯より大変高い貧困率を呈しています。貧困リスクは高い。スウェーデンも夫婦の世帯より高い。またアメリカの場合もやはり女性世帯は大変高い貧困リスクです。

ちょっと独特だと思ったのは、スウェーデンの場合はシングルのリスクのほうが大きい。シングルマザーよりシングルの貧困のリスクが大きいので、実質的にシングルマザーの貧困リスクを下げることにおいて、スウェーデンでは家族政策や労働市場政策を通じてかなり成功したということがおわかりになっていただけると思います。

韓国の場合、家族類型では統計的に有 意味ではありません。そのために家族類 型は夫婦世帯を基準変数にしたので、基 準変数をシングルに変えたらどうなのかということを考えてみました。するとシングルマザーがより貧困なのか、貧困リスクは高い結果になりました。実際夫婦世帯を基準にしたときは、夫婦世帯自体のバリエーションもありますし、明確な特徴はあらわれないということもありますが、シングル、独身女性よりは子どもを育てる負担のあるシングルマザーの貧困のリスクのほうが高いということが、おわかりになっていただけると思います。

私が韓国のデータを見て不思議だと思ったのは、男性世帯主の世帯で子どもがいる場合、18歳未満の子どもがいる場合、むしろ子どもがいないときより貧困率が低いことを確認することができます。これは、経済的な余裕のある人が韓国では子どもを産んでいるからではないのかということで推測してみました。子どもがいない世帯より子どもがいる世帯のほうが貧困率が低いのが韓国の特徴です。この点についても分析をしてみる必要があるのではないかと思いました。

要約です。全体的にごらんになってみると、女性世帯主の貧困を貧困の女性化のテーゼの検証から入りましたが、全体的に、一般的には女性世帯主が依然として貧困層では不釣合いに多いです。しかし西洋では全体的に女性貧困率が継続して増加してはおらず、スローダウンしたり、増加が中断されている傾向にあります。

韓国の場合は貧困層の割合だけで見る と女性世帯主の人口規模が少ないので、 貧困層の中でも女性世帯主がまだ多数で はないが、ゲットー化された特徴、少な い人口分布に比べて高い貧困率があらわれています。また一般的に90年代の半ば以降、韓国では女性世帯の貧困率が増加している傾向があります。特に韓国の場合は独身の親の世帯より、高齢者のひとり暮らしのお年寄りの貧困率があまりにも高いです。実際韓国では女性老人の貧困は結局は生涯の貧困が累積しているという形を帯びているだけでなく、社会的にも高齢者に対する社会保障体系が不足しているから高齢者の貧困率が高いということにつながっています。

最後に、先ほど説明しなかったと思いますが、ここにあるように、韓国の場合、雇用の効果を見ると、これはオッズ比として表現されていませんが、韓国では仕事をする場合男性世帯主は6.6倍、貧困率が減ります。仕事をしない場合よ

り。しかし女性世帯主の場合は2.5倍減ります。実際、韓国では仕事をしても貧困から脱する可能性が他の国より低いです。つまり雇用を通じた貧困削減効果が、韓国では大きくあらわれてはいません。

最後に、先ほどお話し申し上げましたが、女性世帯主の貧困を研究するときにもう少し適切な指標を使う必要があると認識しています。実際は貧困層の中での集中レベルを調べる指標を見ると、図柄が変わる可能性があります。また、年齢効果と関連して、これから韓国の女性世帯主が仕事をしているにもかかわらず貧困から脱する可能性が低いという側面では、より多くの議論が必要だと思います。以上です。ありがとうございました。(拍手)